

持田古墳物語

高鍋町古墳は、以下の１０地区に分けられる。
この番号は、本マップ上の地区番号に相当する。

- | | |
|----------|-----------|
| １．持田古墳群 | ６．光音寺横穴墓 |
| ２．正祐寺横穴墓 | ７．毛作古墳群 |
| ３．老瀬横穴墓 | ８．水谷原古墳群 |
| ４．山王古墳群 | ９．上永谷古墳群 |
| ５．牛牧古墳群 | １０．蚊口浦古墳群 |

これら１０地区の中では、持田古墳群が最も大きい。
その古墳群を形成する一つ一つの古墳の距離は多少あるが、
車で移動する道中良い景色が続くので飽きがこない。
高鍋駅から車で１５分程度に持田古墳群はある。
この近くにある高鍋大師と一緒に、散策コースに組み込んでみては？



案内図



位置案内図



第１号古墳 計塚



第１５号古墳 石舟塚



第１６号古墳



第２３号古墳

小丸川流域にあたる木城町・川南町・高鍋町には数多くの文化財が残っています。
なかでも代表的なものは古墳時代につくられたお墓である「古墳」です。
小丸川北岸の川南古墳群（川南町）と持田古墳群は国の史跡に指定されています。

高鍋町内にある古墳の数は１９２基といわれています。そのほとんどは昔からよく知られています。このなかには最近発見されたものもありますが、
工事などによりすでに消滅しているものもあります。

その内訳をみると、持田古墳群には前方後円墳１０基、円墳７５基があり、
その他には、蚊口浦・雲雀山・上永谷・下永谷・日置牧・水谷原・毛作・大戸ノロ・
牛牧・山王・野首の各地にあわせて前方後円墳８基と円墳６０基があります。

堀の内・下永谷・光音寺・老瀬・東光寺・正祐寺の各地にあわせて３１基の
横穴墓が知られています。

最近の発掘調査で、牛牧の下耳切第３遺跡からは地下式横穴墓８基が
発見されました。地下式横穴墓は、宮崎県の南西部を中心に鹿児島大隈半島などに
多く分布しています。高鍋町で発見された地下式横穴墓は、現在、その最も北に
分布するものとして注目されています。

小丸川北岸の台地上の比較的狭い範囲に、持田古墳群のほとんどの古墳が
分布しています。持田古墳群は、４世紀の中葉から７世紀ころにかけて作られた
古墳群です。

古墳群の中で最も大きい古墳は、第１号墳の計塚（はかりづか）で、
長さが１２０メートルある柄鏡型の前方後円墳です。宮崎県内で５番目、
九州でも８番目に大きな古墳です。この第１号墳はその形状から、
４世紀の後葉から５世紀の初頭にかけて作られたものといわれています。

また、第１５号墳の石舟塚（いしふねづか）は５世紀の後葉に作られたといわれ、
古墳の後円部に阿蘇溶結凝灰岩製の舟型石棺が露出しています。
この石棺は、江戸時代の安政年間に掘り出されたと伝えられています。

小丸川北岸の沖積平野にも持田古墳群うち前方後円墳１基と円墳１基があります。
このうちの前方後円墳は、第６２号墳の亀塚（かめづか）で、
前方部の短い帆立貝式の前方後円墳です。この円墳には、木棺が納められています。

昭和初期に、持田古墳群をはじめ付近の古墳はほとんどが盗掘を受けました。
そのときの出土品には数多くの鏡や刀、馬具や勾玉などがありましたが、
その多くが売買され全国に散逸しました。この貴重な出土品の一部は、今日、
全国各地の美術館や博物館などに所蔵され展示されています。

この持田古墳群の一角、高鍋の町を見渡す台地の先端に巨大な石仏像があります。
昭和初期の持田古墳群盗掘を嘆いた岩岡保吉（１８８９～１９７７）が八十ハケ所の
石仏をまつり、また自らも石を彫り、高さ約６メートルの九体の石仏をはじめ
約７００余体の石仏を安置しました。
ここは高鍋大師として人々に親しまれ、高鍋町の名所の一つになっています。